

協力して命を救う

著者	鬼形 充智
雑誌名	新潟日報 上越かわらばん
巻	1375
ページ	2-2
発行年	2015-06-07
URL	http://hdl.handle.net/10631/1257

私が電車に乗っている時も強く拍動していることが10%ずつ低下すると言

時の体験談です。車両後を感じました。もしこのわれていきますから、救急隊の到着をただ待っている

県立看護大学 臨床看護学領域成人看護学助手 鬼形 充智

所要時間は平均で約8・5分かかります。心肺停止から1分ごとに生存率が10%ずつ低下すると言われ、1ヵ月後の生存率は1・6倍、社会復帰率は2・1倍高くなったと報告しています。

協力して命を救う

の声が聞こえました。すぐに駆け寄ってみると助けを呼んだ女性の足元で、年配の女性が倒れています。私は倒れている女性の肩を叩き呼びかけました。身動き一つしませんでした。

例えばこの女性が心肺停止の状態、私が119番通報はしたけど何も下してしまいます。

年間12万人の方が心肺停止の状態、医療機関に搬送されています。高度な医療処置により心肺停止に至った方でも社会復帰が可能になりました。

みなさんがこのような状況に遭遇したらどうしますか。私は突然の出来事が現場に到着するまでの原因があつて心肺停止に

9番通報はしたけど何も人(ここでいう私のこと)による心肺蘇生法を行うことが大切になります。

しかし、今以上に救命率の向上を目指すには、緊を救いましょう。

事には混乱し、心臓がとて

119番通報から救急隊消防庁の調べでは心臓に緊急事態を発見して119